

基礎ゼミ

少子高齢化社会の家族

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 概要

- ◆ 授業の目的と概要：家族は、多くの学問領域にまたがって多様なアプローチができる研究対象です。日本をふくめ、現代の多くの社会では、人口構造の高齢化と出生力の低下という大きな変動を経験しつつあり、家族に関連する人々の行動や制度もそれにしたがって変化しています。この授業では、現代社会における家族に関連する問題について、受講者自らが問いをたてて研究を進め、自分なりの暫定的な答えをみつけます。
- ◆ 学習の到達目標：知的生産に必要な資料収集、読解、アイデア創出、論理的思考、批判、討論の技術を身につける。
- ◆ 授業の内容・方法：メディア・本・論文の利用（資料収集と読解）、情報の整理とアイデアの創出などの技術を身につけながら、各自の関心にしたがって研究を進めます。授業後半では、各自の研究内容について、発表・討論をおこないながら、レポート作成を進めます。**人口・家族問題そのものに関する講義はありません。** 授業での課題・宿題をとおして、各自で既存の研究成果を探して読むこととなります。
- ◇ 成績評価の方法：授業中の課題と宿題（50%）、学期末に提出するレポートと口頭試問（50%：主要な評価項目は、意味のある問いをたてて根拠のある答えを導いているかと、その答えに対する批判的な姿勢を持っているか）
- ◇ その他：各種施設の利用期日などによって授業計画を変更する可能性があります。また、授業時間外に、個別面談やグループ活動をおこなうことがあります

2 初年度少人数教育の目的 (東北大学 n.d.)

- 「学びの転換」とは
- 学部をこえた人間関係

3 この授業でやること

- 「知的生産」とは (梅棹 1969)
- 意味のある問いと根拠のある答え
- メディア、他人、自分自身の利用方法
- 批判することの重要性

4 授業予定 (おおよその計画)

- (1) イントロダクション (4/16)
- (2) マスメディア等からの情報収集と批判 (4/23)
- (3) 書店と図書館の利用、本の読みかた (5/7-28)
- (4) 問いの設定について面談 (個人別: 5月末以降)
- (5) 情報の整理 (6/4)
- (6) アイデアの創出 (6/11)
- (7) 他人との対話 (6/18)
- (8) 研究の倫理 (6/25)
- (9) レポート作成について面談 (個人またはグループ: 6月下旬)
- (10) 研究発表と質疑応答 (個人またはグループ: 7/2)
- (11) 口頭試問 (個人別またはグループ: 7/9)
- (12) レポート最終版提出 (8/14 まで)

※ () 内は予定日を表していますが、事情によって授業計画を変更する可能性があります。

秋には基礎ゼミの「成果発表会」が開催されます。口頭またはポスターでの成果発表ができます。成績評価対象外で、参加は任意ですが、発表や質疑応答の方法を学ぶために、参加することを推奨します。参加者がいる場合、発表の準備は、授業期間外におこないます。

5 注意事項

- 授業時間枠は3-5講時ですが、ほとんどの週は3講時だけです。教室外での活動がある場合、各自の報告と質疑に十分な時間をとる必要があるときのみ、4講時 (場合によっては5講時) を使います。
- 授業中の課題遂行のため、情報機器の持ち込みを推奨
- 課題・宿題・レポートは、コメントをつけて返却します (内容によっては再提出を求めることもあります)。
- レポート最終版は、ISTU (東北大学インターネットスクール) <<https://istu3g.dc.tohoku.ac.jp>> のレポート機能による提出とします (すでに受講登録されているはず)。
- 授業資料用の宿題については、提出当日 10:00 までに ISTU の当授業のレポートまたはフォーラムにアップロードされていれば、印刷をこちらで用意します。そうでない場合は、人数分 (6人) のコピーを各自で用意してきてください。
- 教員への相談は、適当な時間に予約をとってください (オフィス・アワーは定めていません)。

6 受講フォーム記入

- 自分の問題関心
- 日頃使っている知的生産やスケジュール管理の方法
- ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況

7 レポートのフォーマット

- 問い
 - その背後にある大きな問い
 - 問いの学問的背景
 - 問いの社会的意義
- 答え
 - 必要な予備知識と前提
 - 答えの根拠
 - ありうる批判とそれをクリアする方法
- 問いを発展させる可能性
- 文献

8 文献を読むときにメモすべきこと

「要するに何が書いてあるか」を意識しながら読むことは重要であるが、ふつうはメモしなくても記憶に残る

- わからないことはなにか
- おかしい点はどこか
- 内容が発展させる方向性

付箋を貼る、目次にメモをする、写真にとる、など。

9 宿題

新聞記事・テレビ番組・雑誌記事・インターネットの情報などで、自分のアンテナにひっかかったものについて、つぎのことをまとめてくる

- 要するに何が書いてあるか
- その記事等が正しいとしたら何がわかるか (「問い」と「答え」のかたちで)
- その記事のなかでわからなかったこと (あとから調べたり考えたりしてわかったことをふくむ)
- おかしい部分 (批判できること)
- 自分なりに発展させる可能性

ISTUに「レポート」として提出できる (月曜朝10:00まで。OpenOffice, Microsoft Office, PDF, HTML, テキストのいずれかのファイルにすること)。または、自分で人数分のコピーを授業に持参する。

その記事などの現物 (またはコピー) も1部持ってくる。

文献

梅棹忠夫 (1969) 『知的生産の技術』 岩波書店.

東北大学 (n.d.) 「「学びの転換」を育む研究大学型少人数教育」 <<http://www.ihe.tohoku.ac.jp/center/tgpm/>>.

講師連絡先

田中重人 (東北大学文学部 日本語教育学研究室)

〒: 980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 文学部・法学部合同研究棟 2F

Office: <http://tsigeto.info/officej.html>

E-mail: tanakas2013@tsigeto.info

Homepage: <http://tsigeto.info/welcomej.html>

Blog: <http://b.tsigeto.info>

年 月 日

基礎ゼミ (田中重人) 受講登録フォーム

氏名 (よみがな):

学年:

学籍番号:

所属 (学部):

興味のあること (非学術的な話題も可):

日頃使っている情報記録やスケジュール管理の方法:

ウェブサイト、SNS、オンラインコミュニティなどの利用状況:

基礎ゼミ「少子高齢化社会の家族」

第1講 マスメディア等からの情報収集と批判

田中重人 (東北大学文学部准教授)

1 「議論」のふたつのモード

- 結論を出すための議論
- アイディアを出すための議論

今日は後者のモードで

2 各自報告と議論

2-3分で内容を説明。その後自由に討論。

3 注意点

- 資料のつくりかた
- 事実を正確に把握する
- 背景となる知識
- 新聞等の記事の構造と文章の特徴
- 「論調」をどう読みとるか

4 次回

自分が興味をもっている本を1冊選び、つぎのものを持ってくること。学術的な内容で、この授業のテーマにふくまれるものがのぞましい(テーマは拡大解釈してよい)。

- 現物 (買うか図書館で借りる)
- その本の「目次」と「奥付」を1枚にコピーしたもの2部 (A3などの大きな用紙に、余白をじゅうぶんにとって)

基礎ゼミ「少子高齢化社会の家族」

第2講 本の読みかた (1): 速読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 読書記録と速読の方法

1 本を読むモード

- 速読 (今日やること)
- 精読
- 批判
- 利用

2 課題

各自もってきた本について、次のことを議論する

- 主要なキーワードとその意味
- 章や節がどのような組み立てになっているか
- 自分にとって参考になること (あるいは面白い発見) はどれか。その根拠となるのは何か

3 書誌情報

- 書誌情報をどこから採るか (奥付の利用)
- シリーズ・叢書など
- 版
- 目次・索引・序文など
- 初出・履歴の情報

文献の情報 (書誌情報: bibliography) をどう書くかについては、分野ごとに慣習が違う。社会科学系では、日本語の本の書誌情報についてはつぎのように書く慣習の分野が多い。

著者 (出版年) 『書名』 出版社.

シリーズ名や版表示などをつける必要がある場合は、書名の閉じかっこ』のあとに () でくくって示す。

4 読書メモと情報の整理

- 読みながらの記録 (付箋・書き込みなど)
- 目次への書き込み
- カードなどへの記録と保存

5 速読の場合に読みとるべきこと

- 部や章の構成と、各章の役割
- キーワード
- 問いと答えのセット
- 根拠の基礎となる理論やデータ

6 キーワードを抜き出す

- その本のなかで重要そうな単語や句
- 意味と用例
- 専門用語か; どの分野で使うことばか
- 類似語との異同
- ほかのキーワードとの関連

章ごとに3つ以上抜き出してみる

7 段落

学術的な文章では、段落 (paragraph) が基本的な構成要素となる

- 通常、ひとつの段落にひとつの主題 →キーセンテンスを見つける (最初にあることが多い)
- 段落をいくつか組み立ててひとつのセクションができる →セクション内で最重要の段落はどれか?
- 段落がうまく構成されているとは限らないので注意

8 読書から読みとること

- その本の主張したいこと
- 自分の研究にとって役に立つこと

研究が進むにしたがって、後者の比重が大きくなる。

9 次回の予定: 図書館見学

- 13:00 に図書館入口に直接集合
- 学生証 (図書館入館証) をもってくる

見学内容と目的:

- (1) 1号館の配置を理解する
- (1) 2号館の官庁統計等と雑誌の配置を理解する
- (2) 書庫の使いかたについて講義と見学
- (3) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ
- (4) 図書貸出
- (5) 借り出した図書について意見交換

基礎ゼミ「少子高齢化社会の家族」

図書館の利用

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 図書館の使いかた

1 図書館見学

- 13:00 に図書館入口に直接集合
- 学生証をもってくること

見学内容と目的：

- (1) 書庫の使いかたについて講義と見学
- (2) 書庫で分類番号から関心分野を探し、書棚から自分の関心のあった図書を選ぶ
- (3) 図書貸出
- (4) 1号館の学生閲覧室等の配置を理解する
- (5) 2号館の和雑誌の配置を理解する
- (6) 借り出した本について議論

[課題] 自分の興味のある本を1冊以上探す。探した本について、カウンターで借り出しの手続き

- 図書館内の資料所在と配列を把握する
- 書庫内の本の分類はどのようになっているか?
- 分類記号・請求記号の仕組み
- 静かに、節度を守って探索すること

東北大学附属図書館では、学部生が本館書庫を利用するには、「書庫利用ガイダンス」を受ける必要がある。今回の授業はこのガイダンスを兼ねているので、受講することで、書庫に入れるようになる(翌日から)。

2 宿題

今回は、本の一部に注目しての「精読」をおこないます。次のものを用意してください。その本の実物も持つてくること。(今日借りた本でもよいし、別の本でもよい)

- 本の中から、自分が注目したい部分をえらび、前回配布資料を参考に、「精読カード」を2枚以上作成(連続する部分でもよいし、別々の部分でもよい)
- 図表などが含まれている場合は、それをコピーしたものに説明を書くなど、工夫する

基礎ゼミ「少子高齢化社会の家族」

第3講 本の読みかた (2): 精読

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 文章を細かいところまでちゃんと読む

1 今日の課題

1.1 事前準備

本の中から、自分が注目したい部分をえらび、「精読カード」を2枚以上作成。

1.2 授業中の課題

ペアまたはグループで、作成してきた「精読カード」と本の現物を交換し、つぎのようなことについて意見を交換する。

- 適切な要約になっているか
- 意味のわからない語・句・節・文などがないか
- 疑問点をどのようにすれば解決できるか (本のほかの部分を見る、索引を引く、ほかの文献を読む、辞書で調べる、人に聞く、など)。

「わからない」とは、単独で意味不明なものほか、「語Aと語Bの違いがわからない」「ここで言っている内容は、あとで言っていることと矛盾してないか?」「この本の主題と関係なさそう」といったことを含む。

実際に調べたり考えたりして、わかったことをカードに書き入れていく。

2 情報の蓄積と整理の方法

- 本を読む習慣をつけること
- 雑誌と雑誌論文について
- その他の情報源
- 文献を読むときのメモ → 下線を引く、付箋を貼る、目次にメモ、コピーや写真を撮るなど
- 情報の整理 → ノートやカードの蓄積、デジタル技術の活用 (日経BP社, pp. 24-29)
- 書誌情報と現物の保管 → 文献整理ソフトの利用、本棚やコピー収納場所の確保
- 文献探索の方法 → 図書館の冊子『情報探索の基礎知識』 <<http://www.library.tohoku.ac.jp/literacy/kisochishiki.html>> など参照

3 来週の予定

来週は、東北大学生協文系書籍店で、本を探す実習をおこないます。13:00に、川内南キャンパス文化系厚生施設 (通称「メイプルパーク川内」) 入口に集合。

文献

日経BP社 (2010) 『実践ノート&書類術』 (日経ビジネス Associe スキルアップシリーズ) 日経BP社。

基礎ゼミ「少子高齢化社会の家族」

書店の利用

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 書店で本を探す

1 東北大学生協文系書籍店で本を探す実習

[13:00] 文系書籍店前に集合 → 好きな本を各自探す

[14:10] 教室に戻り、探した本について情報交換 (書誌情報 (著者・出版年・表題・出版社) のメモを提出)

まず、店内の全体を回って、どのような配置になっているかを把握すること (おおむね、分野別の本が左側、新書や文庫が右側に配置されており、雑誌のコーナーが真ん中にある)。

自分の興味のある本を適当にさがす。手に取って、立ち読みしてよい。よさそうな本については、奥付を見て書誌情報を控える。

- 内容の見当を短時間でつけるには、どう読めばよいか? → 目次、前書き、あとがき、索引、参考文献の活用

静かに、節度を守って探索すること

なお、東北大学附属図書館の所蔵は、つぎの URL で検索できる。

[フルブラウザ用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/opac/>

[モバイル機器用] <http://www.library.tohoku.ac.jp/iecats/>

2 レポートに向けての予定

来週以降は、各自のテーマを絞り込んで、レポートに向けての討論に入っていきます

- 来週の授業でレポートに向けての情報・アイデアの整理をおこなうので、どんなことをしたいか考えておくこと
- 並行して、個別面談をおこないます。各自日時を設定して、30分程度

基礎ゼミ「少子高齢化社会の家族」

第4講 アイディアの創出

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] アイディアを出してまとめていく方法

1 マインドマップ

「ミニマインドマップ」(別紙参照)をまず書いてみる。何枚か書いてみて、それを集積して「フルマインドマップ」を書く。

- アイディアの洗い出し
- 情報の整理
- 足りない情報や課題の整理 → 今後の情報収集

大きな紙と色ペンを用意するとよい (月刊ビジネスアスキー編集部, 2010, pp. 12-17)。

2 KJ法

教科書 pp. 110-116

- マインドマップとはちがい、こまかいところからつくりはじめる
- 適切な大きさの「ラベル」をつくれるかどうかポイント

3 類似の手法

- 問いと答えのリスト
- 文章や発表の構成を大きな紙に書く
- アウトラインプロセッサ
- マインドマップと同様のことは、PC上でもできる

4 宿題

自分がレポートで取り上げる内容について、現段階でのマインドマップを完成させる。次回の授業時に持ってくること。

5 文献

- 月刊ビジネスアスキー編集部 (2010) 『本当に頭がよくなるマインドマップ”かき方” 超入門』 アスキー・メディアワークス.